

一〇、仁川方面作戰（部外秘）

海
軍

（本田 勘）

0945

項目 仁川方面 仁川沖海戦

細目 作戦一般

大石少將(大尉千代田砲術長)

仁川方面の作戦一般と云ふことになつて居りますが、是は私よりも森山中將が適當で詳しいと思ひますから、森山閣下にお譲りを致しまして私は當時千代田の砲術長をして居りました故に、千代田に關係を持つ経過の概く大要を申しまして、其後に二三の所見を附加へたいと思ひます千代田は戦の起る前年、即ち三十六年の六月頃から北清警備で同方面に参つて居りました。

同年十月頃になりますと、段々日露の形勢が怪しくなつて來るので仁

川に行つて居れと云ふ命令を受けまして、それからずっと仁川に居つたのであります。三十七年二月の七日になつて、夜半にそつと仁川を脱け出て八日の朝「ベーカー」島附近で森山閣下など當時先任参謀で居られました瓜生戦隊に會合しました。それから八日直ぐ引返し運送船數隻を嚮導致しまして、後からは瓜生戦隊が隨いて参りまして今度は堂々と仁川に入港したのであります。八日は夜通しで運送船より大村の旅團の上陸援助を爲し終つたのが九日の朝でありました續て瓜生司令官から「ワリヤーク」の艦長に挑戦狀とでも申しますか、手紙を渡す手続きを済ませまして、仁川港を出て瓜生戦隊の假伯して居ります八尾島附近の方へ行つて、艦長が旗艦へ報告に参りました。而して艦長の乗られる「ボ

「ト」か逆潮で歸り途の中に「ワリヤーグ」と「コレイツ」が仁川より
こちらの方へ向つて來ますので、淺間は直ぐ拔錨して敵に向ひました。

直ぐ錨を抜きまして、艦長の乗つて居られる「ボート」を收容しますと

千代田は淺間に隨いて行けと云ふ命令がありましたので、喜んで淺間の

續行して怨を晴らした譯であります。是が大体の経過でありますが、次

に二三の所見を追加して置きます。戦闘開始前から千代田が仁川港に在

泊し居りました如く將來に於ても實力なき中立國の港灣に各國の軍艦と

共に競争國の軍艦が戦合つて碇泊し開戦の機を待つて居ると云ふ事は國

運隆々たる日本帝國には將來又起り得るものと想像するのであります。

米西戦争の時にも「メーソン」號の如き例もありますから、斯う云ふ場合

のことは平素からよく色々研究されておく必要があると思ふのであります。而して斯ふ云ふ場合に必要なのは、舊式の艦でも結構でありますから、必ず軍艦を一隻其の港へ出して置くと云ふことが絶対に必要なことだと思ふのであります。軍艦が出て居りますと、敵を眼前に見て居りまするから、それが色々敵狀判断の有力な資料になりますし、開戦となりますと、其の方面の情況が能く分つて居りますから、是が一時は其の樞軸となりて爾後の作戰を有利に導くことが出来ます。又假に敵の暴行の爲に不意に乘せられて不幸を見ることかありまして開戦の大義名分が立ち且つ其の爲に我海陸軍のみならず國民の敵愾心を惹起し、大に士氣を鼓舞すると云ふことにもなると思ひます。何れにしてもあゝ云ふ場合

には舊式艦でいゝから、是非一隻出しておくことが絶対必要のやうに感じて居るのであります。それから派遣さるゝ軍艦の艦長でありますが、派遣艦の艦長と云ふ人は外交的手腕あり大局に通し決断力と判断力のあつた人が必要と思ひます。是はあゝ云ふ場合になりますと艦長のやり方次第でそれが開戦の動機となるやうなことも起りませう。當時仁川に居て今に戦が始りそうで居りながら命令も来なければ情報も来ないのであります。彼様云ふ場合には若し狼狽して逃りますと戦機を過つて大勢を不利に陥れると云ふ事になります。さうかと云つて餘り愚圖々々して居りますと、機先を制せられて自滅します故に指揮官たるべき人の遣り方が大事なので其の人選と云ふことは餘程氣を付けなければならぬものだ

らうと思ひます。又外國語に堪能な人が乗組員に居ると云ふことが極めて重要であるやうに思ひます。當時村上艦長が「フランス」語がお出来になりました、各國の軍艦の艦長と往來されて居りました事は非常に利益になつたものだらうと思ひます。

下向き
二月の始めにのりし

次に情況通報の事であります。千代田は三十七年一月、段々戦機が切迫するやうに思はれるので色々艦内では警戒を嚴にして居り、又士官が一名づゝ領事館へ行つて居りまして、一刻も早く情報なり、命令なりを入手するやうな手段を取り上命又は一段情勢の來るのを一刻千秋のやうな感じで待つて居りますけれども、何とも云つて來ない、一体どうしたのだらうと云ふやうな風で、居りました。この理由も先達來財部大將の御

断を伺ひまして思ひ當りましたが、本當は忘れられて居るのではないかと云ふやうな感じが致して居りました。末だ當時は飛行機もありませんし、無線電信が千代田のは七十哩位聞へる程度でありまして、一体どうなつて行くのやら譯が分らない、殆ど暗中に物を探るやうな感じがして居りました。斯う云ふ際でありまするが、艦長が決心せられる處の資料になる、何か適當なる訓令なり情報を與へらるる事がないと飛んでもない間違ひを起すやうな事が起り易いのであります。是の事は先達第一次の時に小笠原中將から矢張り云ふやうな意味のことをお述べになりましたが、私共實際其の場に居りまして忘る可からざる苦痛を感じましたものですからあの様の場合には是非何か適當な訓令なり情報なりを與へ

てやらなければいかぬと云ふことを重ねて申述ぶる次第であります。
それから千代田の碇泊して居りました所が、丁度「ワリヤーグ」と「コ
レーツ」とに挟まつて居るやうな位置に居つたのでありますが、「コ
レーツ」碇泊位置變更の爲一兩艦共に案外呑氣でありまして、お底で千代
田の方は無事に経過し二月の七日の夜十一時半に脱出したのであります
是は月の出の三十分前に錨を上げると云ふことを定めて居りましたので
丁度それが午後十一時三十分位に投錨することになつて居るのであります。
最初は錨を捨て、出る心算で居つたのでありますけれども、そろ々
々と錨を上げましても、「ワリヤーグ」も「コレーツ」も平氣で居りま
すので到頭錨を捨てずに引上げて仕舞ひました。斯う云ふやうな事が願

闘に運びましたから何事も無かつたのでありますけれども、假に是が逆に参りまして天祐に恵まれずに或は敵艦から攻撃を受けるか或は又敵の陸兵が先に仁川に上陸するやうなことが起りますと、飽迄之を妨害する必要上港内で戦闘が起つたかも知れない、二月四日頃であります、旅須の艦隊が、陸兵約二千を搭載して出動せり行先不明と云ふ入電がありました。が之はてつきり仁川港に來るに相違ないと云ふことで愈々來たらば千代田は仁川内港に乘せ上げ之れに抵抗する決心を持つて居つたのであります。が風説に止まり夢物語りに終つたのであります。此の如き場合に應ずる爲に小銃其の他陸戦兵器彈藥等の不足を痛切に感じたのであります。次に二月六日の夜の事を一寸申上げます。七日の夜は脱出する

ことに定まつてゐたのですが、前日の六日の晩、釜山から軍艦濟遠が朝鮮海峡で「ロシヤ」の商船を捕獲して、釜山に曳航して行つたと云ふ情報があつたのであります。これで我々は、愈々戦が始つたと直感すると同時に當然此の情報は露艦の方へも傳はつて居るに相違ないから愚圖々々して居られない茲に、一大決心を以て策動せねばならぬと考へました。丁度引潮で千代田から左舷正横前五百米位の所に「ワリヤーク」が居り右舷「クオーター」四百米位に「コレーツ」が居りましたので艦長は之から出港兩方の艦に魚形水雷を發射して、それから砲撃を加へて出て行くからと云ふことに決心せられまして大急ぎで色々準備をして居つたのであります。相變らず「ワリヤーク」も「コレーツ」も平氣で寂とし

て變化なし、それで艦長がもう一遍中央へ訓令を仰いで見ようと云ふことに變更されました。戦闘配備で一層警戒を嚴重にして居りました。是は私は少し記憶違ひして居るかも知れませんが、牟田少將に聞いたのであります。千代田から中央部へ電報を打ちにやると入達ひに海軍省から此方から絶対に手出しをしてはいけないと云ふ電訓が來たので、攻撃實行は取止めとなつたと云ふのであります。私はこの訓令はもう少し前から來て居つた様に思ひます。それから七日の朝になりますと、「ワリヤ・スク」は洗濯物を揚げたのであります。これはをかしいな、ロシヤの船が捕獲せられて居ると云ふことを知つて居るものに相違ないが、どうして洗濯物等を揚げるのだらうと一同不思議がつて居つたのであります。

是は昨日、當時の朝鮮公使館附武官吉田中將が述べられましたが、通信機關の管制で日本とか英國とか云ふ方には分つて居つたけれども、「ロシヤ」の方には通じて居らなかつたからです。實に通信機關の管制、秘密の嚴守が遺憾なく行はれた爲に千代田も無事に任務を果すことが出来たのであります。是は外交機關、通信機關及海陸軍の間に十分意志が疏通して居ることが原因で思ひますから其の方法なり手段なりは平生から良く研究して置く必要があると思ひます。千代田が二月八日の朝「ペーラー」島附近で瓜生戰隊に邂逅した後陸兵の牙山上陸が仁川に変更したと仄聞しましたが千代田が大村旅團（旅團長木越少將）の運送船を嚮導しまして、仁川港に急行し仁川に近きますと「コレーツ」灣仁川より出

港して來ました千代田は戦闘部署に就いて其の動靜に注意して居ります
 と千代田の右舷側を反艦^航し衛兵禮式を致しました千代田も亦それで此方
 も衛兵隊を前甲板の方へ上げて、「コレーツ」に對し答禮をしまして行き過
 ぎました。私は前艦橋に居りまして前方の「ワリヤーク」其の他港内一
 般を見て居つたのでありますが、少し經つと午方^作に於てドンキヤと二三
 發砲聲が聞えました。午方^作を見て居つた信號兵が「コレサツ」が撃ちま
 した。水雷艇が水雷を發射したやうですと唱へました。直に後方を觀^顔み
 ますと「コレーツ」は後續の運送船に頭を向けて近きて居りました。其
 の時に聞きますと、「コレーツ」が千代田と反航して後續の運送船の方
 へ向いたものですから、直接掩護して居る第^九艦隊^隊（矢島純吉司令の一

等艇除一が運送船を攻撃に來たと思ひてか水雷を撃つたが命中せず、それに對し「コレイツ」が應砲したのでありました。之が私共の日露戦争で始めて開きた敵の砲聲であります。是は餘談でありますが、仁川海戦の十日程前に村上格一艦長が「ワリヤーク」の艦長ルードネフ大佐以下士官數名を日本領事館前の一山と云ふ料理屋へ招待されまして、私共も参りました。「ルードネフ」と云ふ艦長は嘗て侍從武官をやつて居つたこともあるし、却却遣り手だと云ふことを聞いて居りましたが親しく接して話をしたことはこの時始めてであります。どうも容貌態度及其の談話等から見ても、勇猛の人の様にも思ひ^はなかつたのであります。而してあの場合重圍の中に陥り、さうして挑戦狀を突き付けられたのに對

しまして、私共は迎も出港する勇氣はないだらうと思つて居つたのであり
まするけれども、優勢なる日本艦隊に向ひて猛然として突進し來り砲
戰を交へ艦側命中弾で慢水傾斜し初めたので引返して仁川に逃込み爆沈
したのであります。却々その勇敢なる行動は敵軍から見上げたものだと思
共は感じて居る次第であります。大体この位で私の話を終ります。

(木田 健)

項目 仁川方面 仁川沖海戦

細目 開戦前コレーツに對する魚雷襲撃の事情

上陸地點の牙山灣より仁川に移せし事情にも言及されたし

森山中將 少佐西沢辰太郎

作戦一般だけをお話する筈なのでありますが、其次のコレーツに對する魚雷襲撃の事情、上陸地點の牙山灣より仁川に移せし事情にも言及されたしと云ふやうなことが書いてありますから、作戦一般の所で申上げた方が宜からうと思つてさう云ふことに致します。

作戦一般のことに就きまして當時仁川には露艦二艘と千代田が入つて居りまして、イギリス、フランス、イタリー、アメリカの各國の軍艦が

(本田稿)

0961

各々一艘づつ居りましたのであります而して聯合艦隊長官から與へられ
ました第四艦隊の任務と云ふものは、木越陸軍少將の率ゆる二千二百人
を搭載する運送船三艘を仁川方面に護送し京城占據の目的を更に同方面
の敵を撃破せよと云ふことであります。之が爲に固有の第四艦隊、浪
速、高千穂、明石、新高に臨時に附けた艦が淺間と第九、第十四艦隊で
ありまして、又この行動の途中から運送船の春日丸、日光丸、金州丸の
三艘を連行したのであります。この仁川に派遣された編成の洵に適切で
ありましたことは自分等任務の遂行上、當事者と致しまして何等の不足
も懸念も感じなかつた程見事なものであります。開戦の當初に於きま
して對敵の重大任務を目前に有して居る艦隊が足手纏ひの運送船などを

(木田稿)

0962

護送すると云ふやうなことは原則として飽迄拒まなければならぬことである。と云ふことは海軍の首腦の人はよく銘記しておかなければならず、又平生から陸軍の當事者に十分さう云ふことを了解せしむるやうにして置かなくてはならぬものだと思ふのであります。仁川作戰の場合は當時の敵情でもありますし、又この敵情に基きました特有の艦隊の發動方でありましたし、又我が主力の大艦隊が同時に旅順に向つて仁川組の行動を間接に援護してくれると云ふ特別の事態であつたから、陸奥^兵護送も大して無理のなかつた行動とは信じますが、兎に角特別の場合に過ぎず原則には反して居る、而かも當時の状況を事後に考ふれば艦隊と同時に行動ねばならぬ程の理由もなかつた様に感じます。若し敵狀と作戰上の必

要からして大膽に陸兵を敵地若しくはその附近に進出せしむるやうな必要を認むる際には、他から強要されないで海軍が進んでそれを提議してさうして遂行すべきことであると云ふことも忘れてはならぬと思ふのであります。要は開戦と云ふやうな際に當つて血氣に逸る陸軍の希望に海軍が引づられて大局を廻るやうな失敗を招かない心掛を凝りと持つて貰ひたいのであります。運送船の護送中に對敵行動に移る場合には運送船隊は成可く先任監督將校の誘導に従つて迅速に戦ひを陸岸方面に避けて時機に依つては全く個々別に安全の行動を取れと命ぜられたのであります。最近その運送船中に居りました一人の陸軍の中隊長の追憶談をじかに私は聞きました。が、海軍はそんな場合には飽迄敵に對し直接援護

してくれさうなものであるのに、それを遣放すが如き實に無情極まれりと感じたさうであります。是は海軍の作戰に對する無智の然らしむる所ではありますが、少くとも陸軍大學教官と云ふやうな職を持つて居る海軍の將校はかねがね運兵船護送中の對敵行動の原則丈位は十分に彼等に注入して置く必要があるだらうと存じます。四戰隊の作戰の當時の方針を一寸申上げますが、佐世保の出勤に依りまして、我々共に既に戰場に乘出したのでありまして専心攻撃精神に燃えて居つたのであります。敵方と致しましても幾分の相違はあらうけれども我等同様の氣分になつて居るものだと推想して計畫を致しました。それでありますから、始は仁川に敵が依然として居る場合には陸兵を牙山で揚げて同時に主力は仁川

の敵に對抗し、又旅順方面からの敵萬一参りますものに對する備をも考慮して策を樹て千代田に遷遁した後に敵に關する實際の情報を受取つてから之を確定する考であつたのであります。そこで八日の午前八時に千代田に會合し、その情報に依りまして始めて茲に牙山の揚兵を止めて仁川揚兵の決行に決定されたのであります。牙山も困難はあるだらうが絶對に揚げられぬと云ふ程不便な所ではあるまいと實は考へて居りましたし、又中央からして出先の京城、仁川等の陸軍關係に對しても木越の隙は仁川若しくは牙山に揚げると通じてあるから牙山にも揚兵の施設其他之に使ふ所の船なども用意をして居るだらうと心得て居つたのであります。所が千代田に會ひまして、先程大石少將のお話になつたやうに敵

0966

の方は案外はんやりしてゐること、又吉田増次郎、當時の少佐から陸軍の註文並に日本軍の京城來着を一刻千秋の思で待つて居ると云ふ、洵に緊迫した情況であると云ふことも承知致しましたし、又牙山は遠淺で以て到底あんな所で兵は揚げられぬ、何等の設備もなければ船も何も送つてないと云ふことがはつきりました爲に、それなら一つ是丈の力強い艦隊の全勢力を彼等に示して威壓しさうしてその勢に乗じて稍々冒險的ではあるが、所謂敵前上陸のやうな心算で揚げて了はう斯う云ふことで千代田と會合後に御決定になりましたさうして牙山灣口に急行し、そこで漂泊して速に各艦に次の仁川進入の命令を與へられたのであります其時分仁川からして陸軍の傭ひ船見たやうな小蒸氣に乗つて來てさうし

て「平壤は危急に瀕して居ります速かに仁川に御上陸を願いたい」と云ふやうなことを訴へましたが之は命令發送後で別に之が爲めに仁川揚陸決定に力を添へたものではありません。千代田艦長は噂通りロシヤ側が軍艦七艘を以て二千人以上の陸兵を持つて來た時若し揚兵の通牒を受取つた場合は月尾島の後の方へ廻つて行つて上陸する兵隊を片端からぶつ放すのだと云ふ風なことを決心されて居つたさうであります。敵が若し千代田艦長同様の態度に出たなら實に困つたのであります。幸ひにさう云ふ手段に出ないで萎縮して仕まつたから大變に都合が好かつたのであります。斯う云ふ具合で先程大石少將のお話になつたやうな具合で仁川へ侵入致して参りましたが、千代田艦長が朝會した時に持つて來た命令の一

つに海軍大臣からだつたと思ひますが、仁川港内には外國軍艦も碇泊して居るから港内に於ては當方より攻撃すべからず、戦闘行爲を爲すべからずと云ふやうな電報訓令が参りました。偕て仁川港と云つても何處から何處迄だか分らない地形であるので何處いら迄を仁川港にして是はうかと一寸困つた様な氣分が致しました然し此電報は時に取つての非常な良いヒントも得たと私は思つて居ります。それは之に依つて八尾島を貫き東西に線を書いて之から以北を仁川港内と認むと云ふ事にして仁川の港の内外をはつきりさせて、この線よりも南で敵に會つたならば撃沈して是へと云ふ爪生司令官の明確なる命令となつたのでありました。かくて我が堂々仁川指して進入し隊の中央が此區劃線上に差掛つて居る時に

當つてコレイツが出来たが先程のお話のやうに「コレイツ」には聊かも戦意はなかつた様であります。さうして千代田とは衛兵隊の敬禮交換迄したと云ふ話でありますが、尋で淺間と摺れ違ふ迄「コレイツ」は依然衛兵隊を立付けて居つたと云ふことであります。私など幕僚など「コレイツ」が下りて来るのを見て居りましたが、困つたことには撃沈して良いと云ふ所と撃沈して悪いと云ふ所との境目に來て如る時に、「コレイツ」が下りて來て了つた殊に此處では萬事が仁川に明瞭に判る、是は行過でして後續艦二隻ほどやつて、沖の方で沈めて了はうと思つてゐた譯で水雷艇が之を攻撃するとは少しも頭になかつたのであります。所が先頭の左側に進航中の矢島純吉司令の水雷艇が反轉し兩側に分れて「コレイツ」を挟んで来る

やうな格好をしてゐるので脅かしてゐるのかと思つて、何か信號でも一つ擧げるかなと思つて「行過ごせ」と斯う云ふやうに次の信號を擧げようと心得てゐると、水雷が一本スボンと出た、それは先の方へ行つた艦からだと思ひます。艦が一本水雷を撃つたので、私が見て居つたが瓜生司令官に「水雷を撃ちましたよ」と申上げた「そんなことはあるまい」と斯う云はれる。さうすると向ふでボンボンと今度は大砲を三四發も撃ちましたかしら、二三發多く四五發だと私は思ふのでありますが、水雷艇の方は十五、六發撃たれたと申して居るけれども、さうは撃たれなかつたやうに思ふ。さうすると又今度水雷がスボンと出るのを私は見たので私が「又撃ちましたよ」と司令官に申上げました。司令官は「何そん

0971

なことはあるまい」と云つて居る。其の中に「コレイツ」が反轉して港内に引返して行き水雷は中らず、それから向ふも三四回發艦ただけで元へ歸つて行くのだから何だか分らなくなつて了つて、又平和の狀況へ戻つてずつと入つて行つて有耶無耶の中に兵隊を揚げて了つた、と斯う云ふ形でありました。此時（二月九日午前八時）ニ海軍大臣へ電報を打ったのであります。「本日午後五時運送船隊を率ゐ仁川に入港の際、八尾島附近にてコレイツの出港し來たるに會し、運送船攻撃の態度に出たるものと水雷艇より二發の水雷を發射せるも中らず、彼一、二發の發砲をなし仁川に引返し碇泊せり。本職は露國先任艦長に對し九日正午迄に仁川を退去せんことを強制し若し應ぜざれば港内に於て彼を攻撃するの已む

を得ざる旨九日午前八時通告し、在港列國艦船には此理由を以て九日午後四時迄に錨地を變せんことを請求する書面を直接又は間接我領事を経て列國領事に午前七時配布せり。依て九日午後四時以後に於て此行動を決行せんとす。此電報をやりました所が、海軍大臣からだと思ひます。水雷艇から二發の水雷を撃つたと云ふことは、此方が先に手出しをしたと云ふことになり不都合であるから、向ふから發砲したから此方が撃つたのだと云ふ風に電報報告を訂正して出せと、斯う云ふ回訓が参りました。そこで「これは不都合ではありませんか」と云ふので今度は次官に宛て、司令官から「出先の者は實際を御報告致すのであるからして、必要とお認めになつたら適宜に其方に於て御訂正相成度し」と云ふ返電を

0973

やつて、是は適宜修正して呉れたやうであります。で矢張りさう云
場合には中央に於て適宜御訂正になつて然るべしで、其上斯くの如く訂
正して置いたからさう承知せよと出先にお云ひにならんと、出先の者が
色々のことを考へて訂正して作り事をして電報したりなどすると云ふこ
とは場合と事柄にも依るが原則として慎まなければならぬだらうと私は
其時深く考へました次第であります。此際仁川港内に於ては各艦軍艦も
碇泊してゐるから、此方から戦を仕掛くべからずと既に訓令が來て居る
のに拘らず爪生司令官はそれを港内に於て攻撃するのだと云ふことを云
つてやられたのに對しては何か云うて來られるかしらと思つて實は内心
懸念して居りました所が、何も云つて來なかつたのであります。が、此事

に就ては中央の位置に居られた方に聞いて見たら相應の議論があつたんぢやなからうかと思ひます。で敵に對しては九日の正午迄に出て來なければそこで叩き附けるぞ、さうして置いて攻撃は午後四時以後でなくちやならんと云ふ、そこに時間のギャップがあるのですが、是は記事文を御覽になるとお分りになるまいと思ふのであります。意^見りロシヤの軍艦に對しては成る可く時間を切詰めろと云ふことで挑戰狀を渡してから出る迄の時間を短くした。そこで敵方に於て蒸氣が上りきらんと云ふやうなことを云つたり又シリンダー・カバーが外してあるからと云つても、斯う云ふ際にはもう蒸氣が上ると云ふ丈け印の時間を與へて、後は與へない方が良い、兎に角向ふの頭を混亂させることが目標であるから、成

る可く時間を切詰めろ、併し外國の軍艦に對してはどうも切詰めろと云
 う譯に行かんから、朝の七時に渡して午後の四時迄としたならば鋪地變
 換の時間なし様との口實を封じ得るだらうからそえで午後の四時迄は攻
 撃は開始しないと云ふことを、各國の軍艦には申送つた。それをロシヤ
 のやつが各國の軍艦から、お前の方には何と云つて來てゐるか、俺の方
 には午後四時迄には攻撃は開始せざるべしと書いてあるが、と云ふこと
 を聞けば余程余裕が出たのでありませうが、そいつはどうもどう云ふ都
 合であつたか、今のやうに頭が逆上せ切つてゐるものだから遂に彼等は
 其處の所は餘りに考へずに正午迄に出勤したが、午後四時には港内攻撃
 が始まると云ふことは頭に深く刻まれて居つたことはコレイツの爆沈其

他に依つても獲はれます。コレーツの爆沈したのは午後の四時であつてもう四時になるとやつて来るぞと云ふので急いで着のみ着の儘で艦を離れ早く爆沈して丁へ、と斯う云ふことでやつたのでありますから、當然外國側から承知して居つたと思ひます。八日午後の「コレーツ」の小競會の節燕が全^{餘り}勢ひよく、「コレーツ」に向つたものですから、たしか庄野と云ふ艇長でありましたか西側の淺瀬へ持つて行つて乗上げてしまひスクリウなどを傷めて動けなくなりましたが、後では十節位出るやうになつたのであります。斯う云ふ具合で行きます時に、先程申しましたやうに、此優勢な全勢力を敵の眼前に展開してデモンストレーションをやつてやれと云ふので、港内随分深く迄全部が侵入しまして、之を

居るぞ、よく見ると云ふやうな格好をし揚兵に従事するものは従事する
外へ出るものは出る、それから淺間は何か惡^成擬すれば叩き附けると云ふ
中途の碇泊位置に就いて居つたのであります。此水雷艇隊がさきに述べ
たやうな行動に出ましたのは、矢張り場合が場合として非常に氣が張つて
ゐた結果で實際に之を判斷すれば洵に輕舉でありまして、あれを本當に
やられて水雷でも中つて居つたら本當の戰が彼處で開けたであらうし、
實に爪生司令官の計畫が畫餅に歸しはせんかと思はれる程であつた畫餅
に歸したかどうか知らんが兎に角大蹉跌を來たしたものだと思つてひや
と致します。殊にあの線以北に於てはやるなと云ふことになつて居るの
だしあの線以南にあつても艦隊が指揮官始め全部居る所で自分が一人で

(木田精)

以て命令も受けずに行つて、對敵行動をあの際に取りなどと云ふやうことは一寸常識で考へられないのですけれども、運送船^{り方は向ッ}を持つて行つてどうも危険を加へさうであるから、と云ふことが理由になつて居りますけれどもそれは後から附加へたのではなからうかと私は思ふのであります。斯う云ふことは餘程水雷艇隊の司令と云ふやうなものは、冷靜慎重にやるやうに戒めて置かんと云ふと、斯う云ふ間違ひが起るのではなからうかと思ひます、然もこの際は日中の時であります。向ふが何かやつたら、コレイツ位ら艦などは淺間が撃たんでも高千穂も居れば浪速も居るのだから、是が撃てば結構なんで夜間なら兎も角でありますけれども晝間斯う云ふ行動に出られたことは實はひやつと致しました。兎に角あ

0979

の場合假令京城は殆ど混亂に陥らんとして居る、と云ふやうな頻々たる
 電報に促されたとは云へ随分思い切つた行動を何の躊躇もなく果斷決行
 された爪生司令官の遣り振りにとは思えば思ふ程敬服に堪へませぬ、陸軍
 が餘り何時の調子で何を最初に上げなければいかん、その次には何だな
 どと云つて居る中に、向ふは鐵砲でも撃つて兵隊が殺されてはいかんと
 云ふので、爪生司令官は本越司令官に成る可く兵隊を眞先に上陸させて
 貰ひたいと云ふ御注意を送られたのでありまして、もう五時頃から兵は
 どんどん上つて行きました猶ほ運兵船には満潮に乗じて陸の岸壁に附け
 る位に持つて行つて次の潮で出て来る位に遣れ、若し出て来られん時は
 其處へ其儘にしても構はないから、と云ふやうな勢でやつたのでありま

して平鑊丸の如きは陸岸近く迄乗込を實行したのであります豫定通り一夜の内に大抵上陸は出来たのであります。が木越隊が陸へ上りますと、のんびんだらりと全部仁川へ止つて京城には翌九日の午前九時の汽車で漸く出て行くと云ふ緩慢なることを實は致したのであります。私は此點に就て一向氣が付いて居らなかつたが、一、二年前爪生司令官が私に仁川の話がラヂオ等であるのだが、それで思ひ出したが、俺が一番不快に感じて居ることは木越と云ふ男は同郷であり親友なんだが我々海軍當事者があれ丈意氣込んで揚兵さして遣り京城が混亂の危機に迫つて居ると云ふに拘らず即時京城に向つて行動を起さなかつた緩慢さに至つては呆れて今でも腹立たしく思ふて居るのだと、斯う話をされたのですが、私は

は是は尤もだらうと思ひます。然し事實此際我艦隊が仁川さへ制すれば
陸兵が行かんでも京城は自然と安穩になる可きであり實は陸兵の同時進
出を要する程でなく特別陸戰隊でも事済んだ狀況だつたと考へられます
で爪生司令官は愈々揚兵が何時終ると云ふことを港内の高千穂に無電で
問合すのだが露國の防碍で通ぜず其内八日の午前二時でしたか、高千穂
艦長から派遣された水雷艇の報告に依つて進捗の程度が豫定通りなるを
承知されて、そこで愈々明日挑戰狀を渡^くんと云ふことに取掛られたので
あります。所が九日千代田艦長が午前に仁川の揚陸作業からして任務を
終られて歸つて來られて、さうして浪速に報告された時に「司令官、ロ
シヤの軍艦は到底出て來ませんぜ、さうしてワリヤーク艦長ルードネフ

(木田浩)

大佐なども兼々云つて居つたのですが、もう間もなく自分は豫備役になるので戦が始まつても仁川で蹲み込んで居ればよいと云ふ調子であり、どうも様子を見るのに到底あのやつ共出て來はしませんよ、自分が出て來る迄には既に挑戦狀を受取つて居りながら出さうな様子は一向見えなかつた「斯う云ふことを浪速へ來て云はれたのですから、茲で一吋私らも失敗しましたのは、敵に對する戦闘と云ふことよりも出て來ないに就いてはどうして彼奴等をやつつけて了はうか、ああは脅かしては見たものの各國の軍艦もツラリと居るしそこへ鐵砲玉を喰はせると云ふ譯にも行かない、何とか良い法はないかと云ふので、桑島艦長を浪速に呼び別途の方法を案劃せんとし又千代田艦長と會談を續けて居る際又^又各國軍

艦からの連名の抗議書を持ってイギリスの小蒸汽がペンデントを立て、
後かに仁川から出て來まして浪速に近いて來たのであります。それで村
上艦長は「あゝ、タルボットの艦長が來よるんだな、それではあれが何を
言いに來たか其來艦迄司令官の寢室へ行つて彼の話を聞いてから歸らう
と云ふ譯で、司令官の寢室に村上艦長が入つて、その士官の上つて
來るのを待つて居りました。所がそのイギリスの小蒸汽が着いたから私
は舷門へ行つたところ大尉の士官が上つて來てさうして先に申した抗議
書を私に渡しました。各艦單獨の抗議書は既に受取つて居つたのだが、
今度は連名の抗議書であつて、それを私は見ながら上甲板からケビン・
ハッチを下りて司令官の公室へ行つて「司令官、又面倒なことを云つて

來ましたぜ」と云つて讀まうとすると上から信號兵が「敵艦が出て來ました」とどなつたものだから、私は駆け上つて行つてイギリスの士官に「戦だから直ぐ下りてくれ」と日本語だつたか英語だつたか知らんが云つた所が先生小蒸汽に下りて行つた。それから直ぐにブリツヂへ上つて出港作業にかゝつたが今のやうな譯合で以て、實はケーブルが近儲としてあつたんですが、その前に實は錨を抜いて各々で之を要撃する配備に就く豫定であつたが、今の出て來ないと云ふことに私共も氣を取られてそこへ抜かりがあつて艦は暫くこの儘と云ふことで、みな其處へ碇泊して居つたのであります。それで出港を最初にやつた所がもう敵の彈丸が飛んで來るものですから仕様がなから戦闘を同時に命令して「艦長錨

0985

を切らなければ駄目ですな」と云ふと、艦長は碇を切つて出られたのであります。其時に千代田の艦長はケビンに居られた筈なのだが、如何にしてボートに乘移り歸艦されたのか一向に氣が付かなかつた、尤も千代田のボートが浪速近く漕ぎ行くのは一見はしたが、村上艦長が乗つて居られたか否かは私は氣が付かなかつたのであります。さうする内に千代田が出動して淺間に續行し易き位置に居る。千代田は淺間と一緒に行く豫定ではなかつたのですが丁度具合よく淺間も行きたうな位置に居たから、千代田と一緒にやつたが宜からうと云ふので、司令官に千代田に、淺間に續行せよと斯う云ふ信號をやられたのであります。浪速は錨を切りました。淺間も切りました。遂に浪速の錨はなくなつてしまつ

(本田稿)

0986

たのであります。ブイは附けてあるのだが彼の地の急潮流の爲め忽ち下へ引込まれて砂の中へ埋まつてしまつたと見えてどうしても分らなかつた。此戦の時は敵が外に出て来るものと心得て、こいつを一線、二線、三線で叩く心算で實は居つたのでありますが、淺間が第一線、浪速、新高でしたか、第二線、それから沖へ出る方の側が第三線で抑へる斯う云ふ豫定であつたものですから、各々さう云ふやうな配備に殆ど就かんとして居る時に、ワリヤークとコレイツが引返すやうな形勢に見えたものですから、「直ぐ敵に肉薄せよ」と云ふやうな格好で頭を曲げたのであります。九日の午前からして此戦に至る迄獨り仁川の敵ばかりに我々は氣を配つて居つたんぢやありません。日本の主力艦隊は旅順に向つた。

れども、外からしてもつと強い敵艦隊が萬一來ないとも限らない、と云ふことに對しては十分の考慮を致し特に派建された千早を蔚島附近の内外の警戒に充てまして、若し有力の艦隊が外からやつて來た場合には、我々はシウ~~ヌ~~ン島と云ふ八尾島より南の方の島がありますが、その島を楯に取つてさうして如何なる優勢な艦隊が來ても叩き付け、飽迄やると云ふ方針で夫々命令も出て居つたのであります。強い艦隊に居る人はどうも萬々一の場合~~に~~對する考を起さぬやうであります。弱い艦隊に居るものは常に如何なる強い艦隊が萬々一來ても差支のないやうにと云ふ、何時でも第二の手段を考へて居ります。その點に就いて私は金州丸事變の場合の如き總出動して空になつた元山に残せる金州丸や水雷艦隊に對

0988

し残つたもののばんやり振りもさることながら艦隊司令部の留意や嚴訓が缺けて居つたと思ひます、優勢を持する司令部の陥り勝ちの缺點であり慎まねばならぬと思ひます。我々も元山に留まつた事があつたが其時には、矢張りこの考を以て松田灣に我々の弱い艦隊は入つてゐたのであるが灣口から敵が首を出した所を片端からやつつけへすれば、敵の大砲は全部利かないのだから此方が強いと云ふ譯で何艘來ても宜しいと云ふ備をちやんと整へて居つたのですが、遂に敵が來なかつたものだからそれを實行する迄には参りませんでした。どうも弱い方の艦隊に居ると實にさう云つた考を以てやり強い方の者はどうもそれを怠るやうな気分がありはしませんかと云ふ氣持が致します。只今大石少將に敵のワリ

ヤークもコレーツが洵に勇敢であつたと云ふやうに伺ひましたが、戦後になつてから色々調べて見ますと、あれがどうして途中から引返したか引返へす迄はさう大してやつつけられては居らぬのですが、未だ射距離に入つて居ない位なものでした。それらの點から考へましてあの二艘のロシアの軍艦の行動は決して勇敢では事實なかつたのであります。かねがね日本なんかと云ふものは蛆蟲かの如く^に彼等は各國の間に云觸らしても居つたし、一觸みの海軍が何だと云ふやうな考で傲慢に構へて來て、それも始終聞いてゐるのであります。それが列國軍艦環視の下で日本から挑戦狀を叩き附けられた、勿論出ないのが一番良い方策だと彼等も考へたに違ひないが、我々もさうだと實は懸念致して居つた所が、それが

(木田 晴)

に外^先にも出て來たのであります。それはどう云ふ心算で出て來たかと云へば、一つは時間を與へられなくて逆上せ上つて、あの潮の強い所でイギリスの艦へ懇願に行き又フランスの艦にも懇願に行く^中時間が経つて了ふ、十二時迄には幾らもないと云ふことで非常に逆上せ上つて了ひ、一方に前首ふた平素の意^威張^威方の手前何とか是はしななければいかぬと云ふので、そこで彼等は兎も角一つ出て行かう、さうして戦ふ意志なく勇ましく彈丸を飛ばし損害を受けぬ内に敵優勢なりし故に衆寡敵せずだから引返して來たんだ、と廣^島言^島する心算であつた所があ^の流れに順ふてやつて來たものだから豫定よりも少し外に流れ過ぎたんぢやなからうかと私は思ひます。彼處で外へ出る心算ぢやなくして中途から自分だけ

(木田精)

ンボと撃つて引返す心算で居ったのが、意外にもやつつけられたので不覺を取ったのぢやなからうか、して見るとあれは豫定の行動であつて實は些つとも勇敢ぢやなかつた。我等の如き大敵を相手にして堂々とやつて來た時には誰の目にも極めて勇敢に映つたに違ひないと思ふ。其點に就ては一つも異論はありません、若し之が豫定通り功^{こう}く行つたら蟹子をして名を成さしむる公算充分であつて此戰闘中キワドイ極事でありました。他の軍艦はみな白三黒一と云ふ戦時の塗色に船體を全部塗つて居るのに、千代田は唯一つあれは眞黒でしたか平時の通りで何だか異様に感じた。さうして唯一つの田^か本炭を焚^くで非常に黒い煙を多量に出して淺間の高速に隨從するので勇敢でもあり悲壯でもあり今でも其丈が非

常に目に付いて居りますが、併し千代田がどれ程速力を出したか知らんが、浅間は十六節位出して居つたでせうがよく隨いて居つたと思ふのであります。私はあの狭い所へ縦横に駆けつり廻つて居る所へ浪速其他が同じ目標の敵に對し攻撃を敢行せんと行動するのであるから、私は砲の効果杯はそつちのけにして艦が衝突してくれなければいゝと思つたものですから、始終そのことばかり注意して浅間、千代田と他の艦との關係の推移を見て居りました。月尾島の南の方へ行つた時にどうも千代田の動き方と浪速がこの儘行くと衝突の危険ありと思ひましたので和田艦長に「此儘では千代田と危いことではないでせうか」と云つたことを覚えて居ります。艦長が「あゝさうだな」と云つて舵を取られたやうに覺えて

居りますが、あゝ云ふ場合には皆彈の中る方ばかりを氣を付けるやうで
すけれども、色々な方面に頭を配って置かんと間違ひが起るだらうと云
ふやうな感じが致しました。淺間が飽迄追驅けて行きまして、どこ迄行
くやら一寸分らぬやうでありますから、是は又港内へ彈丸を撃込む迄に
なりはしないかと懸念しましたが一方もう一息だのに惜しいなあと思ふ
時にもう港内へと逃げて了つたのであります。淺間は大分追いました
司令官より淺間に引返せと云ふ信號をされまして引返したのであります
あれ程やつつけて頼死の壯態であるのだから、今夜他の方法でコレ
も併せて始末を付たら宜からうと云ふ程度で想を練つて居ると云ふと
四時になつてコレが爆沈致しました。それで早速艇に偵察を命ぜら

(本田 清)

れたが、其結果ワリヤークも引返して沈没し、コレーツも爆沈したと云ふことになりました。私は慥か夜の六時半頃だったか七時頃だったか情況を^たか^いため^たて上で日本へ電報を打てと云ふので小蒸汽で途すがら親しく實狀を目撃して仁川へ行きましたが、我領事館で自分の見た所も電文に附加へ司令官に後から御承認を受ければ良いと思つて電報文は後の方は附加へて仁川海戦の第一報を發電し領事館に報告したのであります。集つて居つた吉田海軍少佐や陸軍の殘留隊長や領事館等に戦況を括して歸艦したのであります。大體之丈のことを申上げて後はお訊^きねに應じてお答へ申上げます。

この史料不明なれど

ここに置く

平成十八年七月十日 史料係

目高長官

伊藤に司介

正木義太

第三回の日

山屋さん

浅井司介

石田中佐

0996

この史料不明なれど

ここに置く

平成十八年七月十二日

史料係

良
和

楠
次
郎

伊
地
公
和
良

大
石
中
花
間
子

良
村
多
門
良
有
り
と
う
は

十
川
大
才
力
三
七

0997

この史料不明なれど

ここに置く

平成十八年七月十一日

史料係

広瀬少佐

鳥羽中尉
青角大尉

杉野巨蔵大

高崎中尉

栗田大尉

松岡中尉

0998